

# 広がれ！つながれ！！わたしの世界

—「A表現（1）造形遊び」—

～段ボールと紙筒を使って、多目的ホールをへんしんさせよう～

広島市立東野小学校 原 英之 佐々木 奈緒美

- 1 日時・場所 平成24年11月22日(木) 9:55～10:55 3階多目的ホール  
2 学年・組 第4学年1組(男子15名 女子15名 計30名)  
4組(男子16名 女子14名 計30名)

### 3 題材について

○ 本学級の児童は、絵をかいたり、物をつくったりすることが好きな児童が多く、自分のイメージをしっかりとって表現できる児童が多い。また始めのイメージにとらわれることなく、作りながら新しいアイデアを次々に出したり、友だちの作品からアイデアを取り入れたりして、発想や構想を豊かに広げることのできる児童もいる。さらに、時間がかかっても最後まで、丁寧に自分の作品と向き合う姿勢も育っている。反面、イメージが浮かばないために何をしたらいいかわからなかったり、発想に時間がかかったりする児童もいる。創造的な技能についても、用具を正しく使うことや、材料に応じて適切な用具を選ぶことができる児童がいる一方で、これまで経験してきた表現方法や材料・用具の扱いを選択したり応用したりしながら、自分なりの表現を工夫することへ抵抗があるため、苦手意識をもっている児童もいる。鑑賞に関しては、表現途中のイメージやできあがった形を自由に見合い、友だちのよい所を素直に感じ、認め伝え合う姿が多く見られる。4月から、プールを絵の具で変身させたり、非常階段をスズランテープを使って変身させたりする造形活動を体験してきた。活動を通して、自信を持って自分の思いを表現したり、仲良しのグループで表現活動を広げたり、他のグループと表現方法を競い合ったりする場面が見られ、造形あそびに楽しんで取り組み、発想も広がるようになってきた。

○ 本題材は、身近に存在するもののあまり使うことのない材料である段ボールと紙筒を使って、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりして造形遊びを楽しむ活動である。段ボールや紙筒は比較的加工がしやすい材料であるため、自分のイメージやアイデアを表現することが容易であり、一人でも複数でも活動することができる。そのため、発想に時間がかかる児童や集中が続かない児童も友だちと活動を楽しむことができると考えた。活動場所は児童が普段あまり足を運ばない3階多目的ホールを使用する。児童が自由に発想でき、発想が広がっても十分に対応できる広さをもった空間であることと、広いだけでなく、中央に大きな柱があったり、わずかな高さをもった階段もあったりと、複雑な面もあるため、児童の造形意欲が起こり、豊かな発想が湧きやすいと考えた。そして、段ボールや紙筒と複雑な形をした活動場所の特徴を生かして自分のアイデアを試み、作りかえる中で、発想が広がっていくことを楽しむことも期待できると考えた。

○ 指導に当たっては、まずは段ボールや紙筒を使っているいろいろ試しながら活動させることで、そこから自分なりのイメージを膨らませながら、自分や友だちの思いを自由に表現できるようにしたい。また、加工に適した用具を知らせるとともに安全に用具が使えるように配慮する。用具を安全に使うために、用具コーナーを設置し、必要な時だけ使うことや、使い終わったら必ず元に戻すことを徹底させる。例えば、大きな段ボールや紙筒の接着にはガムテープが適していることも知らせ、むだなく使うように声かけをする。イメージが浮かばない児童へは、材料からどんな物が創造できるか、どのようにしたいかを聞いたり、友だちの活動を見に行くように声をかけたりして支援していく。さらには、場所の特徴を生かしながら広い空間で活動することや自信をもって楽しく活動できるように、肯定的な言葉をかけたり、いくつかの選択肢を提案することで自信を持って活動に取り組ませる。

### 4 題材の目標

○活動する場所の特徴や材料のもつ色や形に関心をもち、自分なりのイメージをふくらませて表現することを楽しむ。

### 5 題材の評価規準

	ア造形への関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
題材の評価規準	楽しんで段ボールや紙筒を用いて、多目的ホールを変化させる造形的な活動を楽しもうとしている。	段ボールや紙筒を切ったり、つなぎながら、新しい形を思いついたり、その形から考えて多目的ホールを変化させたりしている。	段ボールや紙筒などを組み合わせたり、切ったり、つないだりする方法を工夫している。	多目的ホールの変化の様子から、よさや面白さを感じ取ったりしている。

## 6 指導と評価の計画（全2時間）

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
		評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する 状況への手立て
第一次 (2時間)  (本時1/2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>段ボールや紙筒を使い、場所の特徴を生かしながら、造形遊びに取り組む。</li> <li>自分や友だちの表現のよさや面白さを見つける。</li> </ul>	ア (対話・観察)  イ (対話・観察)  ウ (対話・観察)  エ (発言 ワークシート)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いをもち、<u>楽しんで</u>段ボールや紙筒を用いた造形的な活動に取り組もうとしている。</li> <li>段ボールや紙筒を切ったり、つないだりしながら、<u>新しい形を思いついたり</u>、<u>表し方を考えたり</u>している。</li> <li><u>場所の特徴を生かしたり</u>、友だちと<u>協力したり</u>しながら発想を広げている。</li> <li>段ボールや紙筒を<u>切ったり</u>、<u>つないだり</u>、<u>組み合わせたり</u>する方法を工夫している。</li> <li>自分や友だちの活動をふり返り、<u>造形的な特徴を具体的に発表させながら</u>、よさやおもしろさを感じ取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発想がうかばない児童へは、思いを聞いた上で、近くの児童の活動を見学させる。</li> <li>思いのままにつくり、どんどん活動を変化させてもいいことを伝える。</li> <li>切る、接着するなどの方法を確認する。</li> <li>自分の好きな場所を選ばせて、どこが好きなのかを対話を基に、具体的に聞き出す。</li> </ul>

### 7 本時の目標

段ボールや紙筒を使い、材料や場所の特徴を生かしながら、楽しんで造形遊びに取り組む。

### 8 準備物

(指導者) 段ボール、紙筒、布テープ、段ボールカッター、万能のこぎり、カッター、カッター板、工作用机、工作用いす、えん筆、ホワイトボード

(児童)

### 9 本時の展開

学習活動	○教師の支援 ★努力を要する児童への支援	評価規準 評価方法
1 学習のめあてを確認する。	○ 学習する姿勢が整っているか確認する。	
<b>めあて 段ボールや紙筒を使い、組み合わせたり、切ってつないだり、形をかえたりして、多目的ホールをへんしんさせて楽しもう。</b>		
2 段ボールや紙筒を使って発想を広げながら造形遊びに取り組む。	○これまでの学習から、段ボールの切り方や接着方法などを確認する。 ○活動の約束を確認する。 ○用具などはまとめて置き、用具コーナーをつくる。  ○思いのままにつくり、どんどん表現を変化させてもいいことを伝える。 ★友だちの表現からアイデアをもらったり、一緒に活動したりしてもいいことを伝える。 ★活動できていない児童には、まず思いを聞き、表し方を一緒に考えたり、近くの児童の活動を見学させたりする。	ア ・観察 イ ・観察 ・対話 ・活動記録 (写真) ウ ・観察
3 本時の学習のふりかえりをする。	○かたんにふり返りをする。	

ミニ鑑賞タイム